

平成26年度 日本薬剤師会 学校薬剤師部会 くすり教育研修会 報告書
山口県薬剤師会 副会長 西村正広

【学校におけるくすり教育の現状と課題】

主催：公益社団法人日本薬剤師会

日時：平成27年3月12日（木） 11：00～事前打ち合わせ
13：30～17：00

場所：スクワール麹町（東京都千代田区麹町6-6）

参加対象：保健体育教諭、保健主事、養護教諭、学校薬剤師
参加者約120名。そのうち学校薬剤師が8割くらい。

司会：日本薬剤師会学校薬剤師部会幹事 木全 勝彦先生

主催者挨拶 日本薬剤師会会長 山本 信夫先生

基調講演 「医薬品に関する教育の必要性～期待される学校薬剤師の役割～」

文部科学省 スポーツ・青少年局学校健康教育課 健康教育調査官 北垣 邦彦 先生
特別活動などで、医薬品に関する指導を行い、顔の見える学校薬剤師を目指してください。と言われた。

報告

①「中学校におけるくすり教育～添付文書を副教材として～」

東京薬科大学薬学部 教授 加藤 哲太 先生
添付文章に記載してある、「水又はぬるま湯で服用」「食後なるべく30分以内に服用」「15歳未満は服用しないこと」などは、なぜなのか解説する方法もありませんでした。
日本くすり教育研究所のホームページにある薬物乱用防止のサイトを紹介されました。

②「小学生の発達段階別薬育が中学生の医薬品理解と適正使用に与える影響」

慶応義塾大学薬学部 教授 福島 紀子 先生
学生に小学校で薬教育を実施させている。スケジュールが合えば、実習生に資料を作らせるところから始めるといいと思いました。

③「8年の歩み～大阪市内の小学生に対する医薬品適正使用の啓発～」

大阪市学校薬剤師会 副会長 西川 節子 先生
コーラにマグミットを入れて泡が出る実験（あわあわ実験）は、使えるかもしれないと思いました。

④「栗東市立中学校におけるくすり教育への取組」

滋賀県薬剤師会学校薬剤師部会 健康教育ワーキンググループ 岡川 東和子 先生
行政と交渉し、実施するまでの事例が紹介されました。

⑤「学校薬剤師と連携したくすり教育の充実について～保健授業の取組から～」

山口県 柳井市立柳井中学校 教諭 宮内 秀一郎 先生
昨年5月に山口県学校環境衛生で発表してもらったものをさらにパワーアップした内容でした。唯一保健体育教諭の発表で好評でした。

パネルディスカッション

座長：兵庫教育大学大学院教授 鬼頭 英明先生
学校薬剤師部会部会長 村松 章伊先生

クラス毎で実地する場合、学年全体で実地する場合の注意点が討論された。また、保健体育教諭と、コミュニケーションをとる方法、校長のリーダーシップで、決まる事もあるので、校長へのアプローチも大切など活発に意見交換された。